

K 1 - 0 9

研究報告 第 3 8 3 号

千葉県学校版環境マネジメントシステムについて

平成 2 2 年 3 月

千葉県総合教育センター

# 千葉県学校版環境マネジメントシステムについて

千葉県総合教育センター カリキュラム開発部

研究指導主事 君塚 正人

研究指導主事 穴倉 博之

研究指導主事 平石 武

## 1 主題設定の理由

### (1) 地球環境問題から

地球の現状をみると、地球温暖化、オゾン層の破壊、生態系のバランスの崩れなど、人類が生存できる持続可能な社会の実現を真剣に考えなければいけない状況である。

### (2) 国際機関・国・県行政の取組から

国連としては、2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育10年（E S D）」と位置付け、積極的な推進を呼びかけている。また、C O P 15、C O P 10など国際的に環境保全の協議が進められている。

国内では、平成18年に施行された改正後の教育基本法の目標に、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」が明文化された。これを受けて、学校教育法や学習指導要領の中にも、環境の保全、持続可能な社会の形成の必要性が求められている。

千葉県としては、環境マネジメントシステムを実施したり、千葉県環境学習基本方針を改訂したり（平成19年）、環境教育について積極的な取組を呼びかけている。

### (3) 学校教育の現状から

学校では、環境教育を行う際の問題点として、教科の中での位置付けが難しいことや時間・人・方法・予算等に課題があること、所管する機関が一元化されていないことなどがあげられ、学校での環境教育は思うように進んでいない現実がある。

## 2 研究の目標

(1) 県内各学校が「エコスクール（環境に配慮した学校）づくり」を無理なく、組織的に、継続して取り組むことのできるシステムとして、「千葉県環境マネジメントシステム」の考えを取り入れた「千葉県学校版環境マネジメントシステム」を作成し、発信する。

(2) 県内各学校の「エコスクールづくり」を支援・推進するために、「エコスクール・ちば」を企画する。

(3) 「エコスクール・ちば」の活動を通して、自然環境のすばらしさや人間生活が環境に負荷を与えていることに気付き、環境保全や負荷の軽減のための活動ができることを考え、行動できる児童生徒・教職員の育成を目指す。

## 3 実践

### (1) 千葉県学校版環境マネジメントシステムの構築と発信

県内教育関係機関、小・中・高等学校等の協力を得て、調査研究委員会を組織し、理論研究と実践研究を重ねて、千葉県学校版環境マネジメントシステムを構築した。その内容を「エコスクールハンドブック」にまとめ、発信することとした。（内容については、エコスクールハンドブック参照）

(2) 研究協力校の活動から

本年度は、次の6校の協力を得て、実践研究を進めた。その活動の中から、活動を通しての成果を紹介する。

＜研究協力校＞

松戸市立高木第二小学校      八千代市立米本小学校      君津市立八重原中学校  
 勝浦市立北中学校          市立柏高等学校          県立市川工業高等学校

ア 現状確認表の作成を通し、教科の中で行われる環境学習を認識する。

エコスクール 現状確認表															
【教育活動としての環境教育】															
テーマ・単元・題材名	内容領域						実施教科・領域				活動規模・組織 学級・学年・担当・有志	活動の内容や方法の概略等			
	地球環境	水	空気	自然・生き物	ごみ・リサイクル	エネルギー	その他	教科	道徳	特活		総合	課外	主な内容	方法等
1	○	○	○	○	○	○					○	○	○	自然の良さを伝える	生物調査、環境調査
2	○	○	○	○	○	○							○	校内と周辺の清掃	
3				○			理科						1	身近な生物の観察	植物・微生物の採取
4				○			理科						2	身近な動物の観察	調べ学習、地域連携
5	○	○	○	○	○	○	理科						3	自然環境と人とのかかわり	環境調査・調べ学習
6				○						学			○	学級花壇の管理	草取り・水やり
7	○	○	○	○	○	○	社会						2	地球環境の変化、資源と産業	文献調査学習
8				○			社会						3	民主主義とまちづくり	文献調査学習
9	○	○	○	○	○	○	社会						3	公害の防止と環境保全	文献調査学習
10	○	○	○	○	○	○	社会						3	21世紀の資源・エネルギー・食糧問題	文献調査学習
11	○	○	○	○	○	○	技術						2	エネルギーと私たちのエネルギー	
12	○	○	○	○	○	○	技術						3	作物の育つ環境、土づくり、肥料	野菜栽培
13	○	○	○	○	○	○	国語						1	ゴミの浄化、クリーンな地球	説明文
14	○	○	○	○	○	○	国語						1	リサイクル、リユース、エコな生活	説明文
15	○						国語						2	地球の未来への危機感	説明文
16				○			国語						3	生物としてのつながり	論説文
17	○	○	○	○	○	○	英語						2		
18	○	○	○	○	○	○	英語						1		
19	○	○	○	○	○	○	保健体育						2		授業
20	○	○	○	○	○	○	家庭科						3		
21	○	○	○	○	○	○	家庭科						2		
22	○	○	○	○	○	○	音楽						3	花・夏の思い出・浜辺の歌	授業

【事業体としての環境活動】													
活動名	内容領域						活動規模・組織				活動の内容や方法の概略等		
	地球環境	水	空気	自然・生き物	ごみ・リサイクル	エネルギー	児童・生徒・教員	学年・学校・担当	家庭・PTA	地域	関係機関	主な内容	方法等
1	○	○	○	○	○	○						ビオトープの管理と生物観察	定期的な清掃、授業で活用
2				○	○	○						ミスプリントなどの再利用	裏紙としての活用
3				○	○	○						新聞紙、空き缶などの回収	PTAとの連携
4	○	○	○	○	○	○						電灯、清掃節水、冷暖房等	学校全体での呼びかけ

環境にかかわる学習は、多くの学年、教科で実施されている。しかし、担当の学年や教科での学習内容は分かるが、他は知らないことが多い。中学校と高等学校では、各教科担当に依頼して教科指導の中で環境にかかわる学習内容を確認し、現状確認表として一覧にまとめることができた。

ほとんどの教科で環境学習が行われていることが分かったことは、多くの教職員にとって新鮮な驚きとなった。それをもとに、教科間の連携を図ることも可能であることが分かった。

イ 活動を推進する委員会を設置し、計画的に活動を進める。

小学校では、各学年の取組を推進委員会で話し合い、共通理解を図っている。1年はアサガオ、2年はミニトマト、3年はキャベツ、4年はゴーヤ、5年は米、6年はジャガイモの栽培活動というように全校児童が自然環境を常に体験的に学習できるように計画された。また、各学年の活動を全校集



会で報告する機会を設けたことにより，子どもたちの環境に対する意識が深められた。

高等学校では，教頭，教職員代表，事務職員，生徒代表により，「エコスクール」委員会を新たに組織し，活動の立案をしたり，広報活動をしたり，全校的な取組が可能になった。活動を提起してみると，教職員が大変協力的であることが分かった。

ウ 一つの環境活動が，全校・保護者・地域の話題，ブームになる。

市の「もったいない運動」の趣旨を生かし，小学校6学年が「リユースマーケット」を行い，保護者・地域の方々を招待した。児童は，活動を通し，物を大切にすることを学ぶことができた。また，多くの保護者が，再度の活動を希望している感想が見られた。学校の教育活動を広報する一つのきっかけとすることができた。教職員同士の話題となり，環境教育の他に，道徳やキャリア教育と関連付けた活動に発展させようと話し合うことができた。



中学校では，生物調査隊を希望生徒10人で組織し，地域の生物調査を始めた。生物図鑑を作成するために全校生徒と保護者に生物の写真の収集協力を依頼したことで，調査隊以外の方々からも多くの写真が送付された。それをもとに作成した生物カードを職員室前に掲示したり，協力者に送付している。生徒同士の会話のなかに生物や環境についての話題が増えてきた。また，ホテル観察会を実施する際には，保護者や地域の方々の協力を得ることで，多くの人が関心を寄せるようになった。



高等学校では，昨年度理科部を中心として緑のカーテンの活動を行った。今年度は，2クラスからの希望があり，栽培面積を増やすことになった。さらに，2階のベランダ等にも簡単に設置できるように緑のカーテン用フレームを作成したり，花をつけるシュッコンアサガオのカーテンにより，校内で話題性が増した。



エ 部分的な修正で，活動の継続の見通しをもつ

各学校の見直し（次年度に向けて・研究を進める上での課題）のなかに，次のような記述があった。

- ・システムを立ち上げる時点での担当者の負担感は大きいと思われる。いったん始まってしまえば，昨年度のデータの評価・改善の流れができるので，見通しが立てやすい。
- ・この形式でいくのならば，担当者が交代した時点での引き継ぎが重要であると思われる。
- ・ただ，環境教育に不慣れな担当者の場合，前動続行で硬直化しやすいと思われる。他校の活動の情報入手など，縦横の情報の流れを整備していく必要があるのではないかと。
- ・本校の本年度の環境方針や活動内容等は，前年度に設定したものである。本年度は，部分的な修正を行ったが，今後多少の見直しはあるにしても，大きく変える必要はないと考える。

現状確認表，活動計画書，年間スケジュール表等の計画を立てる際に，負担が多いと思われるが，いったん始まってしまえば見通しが立てやすい。継続にあたっては，多少の見

直しはあるものの環境方針や活動内容等を大きく変える必要はない。一つ一つの活動については、振り返りをするすることで、次年度の改善点を明確にすることができている。

また、活動のマナー化を避けるため、他校の活動の情報入手等に心がけることも必要であると考えている。

### (3) エコスクール・ちばの企画

千葉県総合教育センターでは、各学校が千葉県学校版環境マネジメントシステムを活用して、地域や学校の実態に応じた「エコスクールづくり」を支援・推進する必要があると考えた。そこで、「エコスクール活動認定証」を発行し、意欲化を図るための「エコスクール・ちば」を企画した。その内容は、以下の通りである。

#### < 「エコスクール・ちば」の活動手順 >

- 1 参加校は、「エコスクール・ちば」活動申請書（様式参照）を提出し、参加の意思表示をします。
- 2 参加校は、年度初めに、現状確認表【様式1】、活動計画書【様式2】、年間スケジュール表【様式3】を提出します。
- 3 参加校では、計画に従って活動をすすめて、記録や評価表をもとに振り返りをします。
- 4 参加校は、年度末に、活動報告書（形式参照）を作成し、提出します。
- 5 千葉県総合教育センターでは、提出物等を審査し、「エコスクール活動認定証」を交付します。

#### 【活動申請書の様式】

平成 年 月 日
「エコスクール・ちば」活動申請書
エコスクール・ちば実行委員長 様
学校名 代表者 職名 氏 を ①
私たちの学校は、持続可能な社会の実現のため、環境に配慮した学校づくりを目指し、「エコスクール・ちば」の活動に参加することを申請します。
連絡先 担当者名 ○○○○ 住所 電話番号

#### 【活動報告書の形式】

平成 年度「エコスクール・ちば」活動報告書
学校名 _____
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 環境方針（宣言）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書で掲げた環境方針（宣言）を記入する。</li> <li>・年度当初のものから変更があった場合は、新しいものも併記し、変更した理由について記入すること。</li> </ul> </li> <li>2 平成〇年度活動スケジュール（P）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の活動スケジュール表をもとに、実際に行ったことを記入する。</li> </ul> </li> <li>3 活動の実際（D・C）                             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育活動としての環境教育</li> <li>(2) 事業体としての環境活動                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書に書いた活動内容ごとに、結果と評価を記述すること。</li> <li>・活動の様子がわかる写真を掲載すること。</li> <li>・「計画書 4 記録方法」に沿って行った活動の記録と、それに対する評価を記入すること。</li> <li>・記録については、数値が可能な場合は、できるだけ記述すること。</li> <li>・児童生徒・教職員の意識や行動の変容や表れをできるだけ記述すること。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>4 次年度に向けて（A）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動結果について見直しをした内容について、記入すること。</li> <li>・継続すべきこと、改善すべきことを明確にできると良い。（評価時点）</li> </ul> </li> </ol>

#### < その他 >

- ・活動報告書の様式はあくまでも例であり、1～4の項目が含まれていれば、その他は各学校で自由に考えて作成してかまわない。（A 4版 40字40行程度）

（例）写真、グラフ、児童・生徒の感想、保護者・地域住民の声等



(4)平成22年度エコスクールちばコンテストの実施計画

県内各学校のエコスクールづくりの活動を支援・推進するため、平成22年度は、前項の「エコスクール・ちば」の趣旨を生かし発展させ、関係機関の協力のもと、「平成22年度第1回エコスクールちばコンテスト」を次の通り実施することとした。

平成22年度 第1回エコスクールちばコンテスト実施要項

1 目的

エコスクールちばコンテストを実施することにより、「千葉県学校版環境マネジメントシステム」を活用した、エコスクールづくりに取り組む学校の拡大を図り、環境教育の推進をめざす。

2 参加資格

千葉県学校版環境マネジメントシステムを活用したエコスクールづくりに取り組もうとする千葉県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校であること。

3 日程・内容

平成22年3月中	実施要項配布，参加校募集
平成22年4月1日（木）～4月30日（木）	コンテスト参加申し込み受付
平成22年5月6日（木）～5月31日（月）	活動計画書等のとりまとめ
平成22年11月22日（月）～12月7日（火）	報告書のとりまとめ
平成22年12月15日（水）	第1次審査（書類審査）
平成23年1月22日（土）	第2次審査（実践発表）

4 審査

(1)第1次審査

ア 会場 千葉県総合教育センター

イ 審査内容

- ・審査員 エコスクールちばコンテスト実行委員
- ・書類審査 活動計画書，現状把握表，年間スケジュール表，活動のまとめ，活動写真等により，15校を選出する。  
(第1次審査通過校10校 1次審査落選の中から上位5校)
- ・結果の通知 12月中に1次審査の結果を通知する。(郵送)  
1次審査通過した学校には，2次審査の案内を同封する。  
1次審査を通過しなかった学校には，認定証を同封する。  
1次審査を通過しなかった学校のうち，上位5校に奨励賞を授与する。

(2)第2次審査 選考期日1月22日（土）

ア 会場 千葉県総合教育センター（7F映写ホール）

イ 審査内容

- ・審査員 大学教授等有識者，エコスクールちばコンテスト実行委員
- ・実践発表 第1次審査通過校（10校）による実践発表（10分）
- ・審査の観点 実践発表を聞き，その後で審査を行う。  
最優秀賞1校，優秀賞3校，優良賞6校を選出する。  
審査員が協議後，投票して決定する。

5 賞

- (1)最優秀賞1校，優秀賞3校，優良賞6校，奨励賞5校に賞状，賞品を授与する。
- (2)報告書を提出した学校全てに，「エコスクール活動」の認定証，賞品を授与する。

#### 4 研究のまとめ

- ・研究協力校では、エコスクールづくりの取組により「現状確認表の作成を通し、教科の中で行われる環境学習を認識する。」「活動を推進する委員会を設置し、計画的に活動を進める。」「一つの環境活動が、全校・保護者・地域の話題、ブームになる。」などの成果を得ることができた。そのなかで、児童生徒、教職員の環境についての関心が高まったり、認識が深まったりした。また、教職員同士で学校教育全般について話し合うきっかけや保護者・地域住民に学校の教育活動を理解していただく機会となった。
- ・2年間の取組の中で、「これまでの地道な活動を継続すると共に、さらに充実をするように努める。そのために、活動計画の部分的な修正は必要だが、大きく変える必要はない。」というように、活動を継続することの方策を見出した学校もある。現状確認表、活動計画書、年間スケジュール表を次年度へ引き継いでいくことが、組織的に継続して取り組むために有効であると考えた。
- ・学校が、無理なく、組織的に、継続して環境教育に取り組むための千葉県学校版環境マネジメントシステムを作成し、エコスクールハンドブックにより、その内容を発信することができた。来年度は、「エコスクール・ちば」の趣旨を取り入れた「エコスクールちばコンテスト」を実施する運びとなった。これにより、多くの学校がエコスクールづくりに取り組むことを期待したい。

#### 【主な参考文献】

環境マネジメントシステム【第8版】	千葉県	平成19年
千葉県環境学習基本方針	千葉県・千葉県教育委員会	平成19年
平成18年度環境教育推進事業報告書	考えよう未来の地球	千葉県総合教育センター

# エコスクール ハンドブック

—千葉県学校版環境マネジメントシステムを活用して—



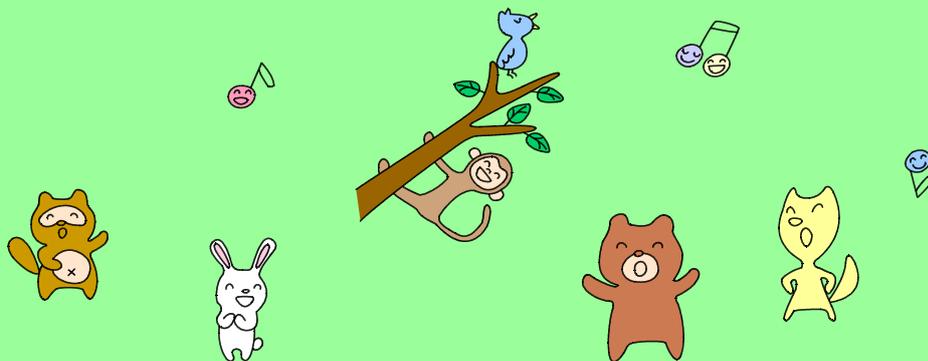
千葉県総合教育センター

## はじめに

教育基本法の目標に、「生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと」が新たに明記され、環境教育の必要性はますます高まってきています。また、「国連持続可能な開発のための教育の10年」提案国としての責務、COP15やCOP10の開催、環境ビジネスの活況など、環境教育を取り巻く社会的、国際的な機運も盛り上がってきています。それにひきかえ、学校での取組が、依然としてははかばかしく進んでいない現状が憂慮されます。

そこで千葉県総合教育センターでは、平成19年度から3年間かけて、県内教育関係機関の協力を得て調査研究委員会を組織し、「千葉県学校版環境マネジメントシステム」の構築を進めました。その際には、すべての学校がエコスクール（環境に配慮した学校）づくりに無理なく、組織的・継続的に取り組めることを重視し、協力校の実践も踏まえながら、システムの構築と改良を進めました。

このハンドブックは、「エコスクールづくりをしたい」「環境教育を組織的に推進したい」学校が、「千葉県学校版環境マネジメントシステム」をもとに計画を作成し、実行、点検、見直しをする手順を具体的に説明してあります。多くの学校でこのハンドブックを活用しながら、エコスクールづくりを推進し、児童生徒の環境に対する関心や理解、そして環境を守る心を育てていただきたいと思います。さらには、エコスクールを地域のエコベース（環境学習のための中核基地）として発展させ、環境保全や環境負荷軽減の取組を家庭や地域へと浸透させ、持続可能な社会の実現と地球環境の保全につなげていただきたいと思います。



## 目 次

	ページ
1 千葉県学校版環境マネジメントシステムの目的……………	1
2 千葉県学校版環境マネジメントシステムの概要……………	1
3 エコスクールづくりの手順……………	2
4 エコスクールづくりの具体的な方法	
(1) 活動内容の絞込みの視点……………	3
(2) エコスクール活動計画書の作成……………	5
(3) エコスクール年間スケジュール表の作成……………	6
(4) 活動の点検・見直し……………	7
様式1 エコスクール現状確認表……………	9
様式2 エコスクール活動計画書……………	10
様式3 エコスクール年間スケジュール表……………	11
<資 料>	
(1) エコスクール現状確認表実践例……………	12
(2) エコスクール活動計画書実践例……………	13
(3) エコスクール年間スケジュール表実践例……………	14
(4) 環境学習推進上の視点……………	15
用語の解説……………	16

